

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1194600282		
法人名	エフビー介護サービス株式会社		
事業所名	グループホームエフビー深谷		
所在地	埼玉県深谷市東方町2-15-3		
自己評価作成日	令和5年11月11日	評価結果市町村受理日	令和6年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者が人生の一部の時間を当施設に預けて下さった事に感謝し、理念である【求められるケアをさりげなく、楽しく、地域と共に】をモットーに、入居者様と職員が共に楽しい毎日を過ごせるよう前向きに取り組んでいます。また今年度は「職員の健康が利用者様の健康に」というスローガンを掲げより良いケアを行うことを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・理念の基で、職員から公募して皆で決めた「職員の健康は利用者様の健康に」の今年の行動指針に沿って職員会議では具体的な支援について話し合い、利用者をお定めせず、過剰介護を排し、1人ひとりの自主性や生活のリズムに応じた個別支援が行われている。  
 ・運営推進会議は、7月より対面での開催となり、利用者や事業所の状況報告や地域の情報交換が行われ運営に活かされており、利用者にも参加していただくことで、出席者に利用者の話を聴いていただくことに繋がり、利用者への理解を深めていただく場ともなっている。  
 ・目標達成計画については、夜間想定を含め、年2回の避難訓練が実施され、ハザードマップにより水害の危険は無いことが確認され、BCP(災害時事業継続計画)も作成され、職員間のグループLINEによる緊急連絡網も作られていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	毎月一回は必ず職員会議を開催し、理念を実践できるよう意見を出し合い話し合っより良いケアを目指している。またケアマネジャーがご家族様の要望を踏まえたプランをたて、担当者会議をご利用者様1人について4か月に1回設けて共有している。	理念の基で、職員から公募して皆で決めた「職員の健康は利用者様の健康に」の今年の行動指針に沿って、職員会議では具体的な支援について話し合い、利用者を否定せず、過剰介護を排し、1人ひとりの自主性や生活のリズムに応じた個別支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5月にはコロナが5類になってからも暑い日が続いたりコロナ感染のご利用者様及び職員がでてしまったり、インフルエンザが流行してしまったりとなかなか行事には参加できていない。	コロナは5類となったが、酷暑だったり、インフルエンザも流行ったりで、地域とのお付き合いを復活することは出来なかったが、近隣の散歩やドライブなどが行われ、「GHエフビー深谷新聞」の送付やブログ・Instagramでの発信など、お付き合いが途切れないように努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	深谷市主催の健康福祉祭りにはテント1張を借りバザーを出店させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月より対面式の運営推進会議を行うよう指示があつてからは事務所で会議を行って話し合い、施設を理解して頂けるようお話をさせて頂いている。当日欠席の方にも後日状況報告書及びエフビー深谷新聞等はお配りさせて頂いている。	運営推進会議は、7月より対面での開催となり、利用者や事業所の状況報告や地域の情報交換が行われ運営に活かされている。利用者も参加され、出席者が利用者のお話を聴くことに繋がり、利用者への理解を深めていただく場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃より連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	8月には運営指導に来て頂いた。困難事例等の際に相談に乗って頂いている。運営推進会議の出席のお願いも出させて頂いている。	市の各担当窓口や大里広域圏組合とは、報告や手続き事項、困難事例の相談などが行われ、協力関係が構築されている。8月に運営指導があり、契約書に記載漏の指摘があったが、他に指摘事項はなかったとのこと。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員全員が理解している。年2回研修を行っている。委員会での研修も行っている。しかし無断で出て行ってしまふ方がいらつやるので玄関は施錠させて頂いているが出たときには散歩に行ったり外の空気を吸っていただいたり気分転換をして頂いている。	4月に他の4委員会と共に「身体拘束・虐待廃止委員会」を立ち上げ、3か月に勉強会が行われている。夕方に外に出たがる利用者がおられるが、職員と一緒に少し外に出ると落ち着かれる例があるなど、思いをかなえることで身体拘束を必要としないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待も研修及び委員会等で防止に努めている。原因の分からない様なあざ・傷・内出血なども見つけた時には事故報告書を書き職員に周知徹底して情報共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の研修に参加し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様より質問されたことについてはわからないことは上司に相談したり適切な場所に相談してお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見を入れて下さるよう投書箱を設置しました。毎月近況報告書・その月に撮影した写真を郵送させて頂いています。またインスタグラムもはじめました。	利用者からは、日々の触れ合いの中で、家族からは、対面での面会の折に、詳細な利用者の生活状況をお伝えすることで、意見や要望を話していただくことに繋げられ、日々提供されるサービスや運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを大事にして会社で飲みケーション代金として費用を負担してくれています。その席での話の内容を報告し意見を伝えたりできています。職員会議の前にも事前に話したいことを全員にアンケート用紙にだしてもらっている。	上司の声掛けにより話し易い環境が作られ、職員会議は事前に意見や議題のアンケートを取ることで話し合いが進み、夜間の開催で職員の参加も多い。「少人数飲みケーション」も再開され、実習生の受け入れに効果が出ているとのこと。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は年間120日の公休を設けてくれた。その他いろいろ改善してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回内部研修を実施している。その他zoomでの研修も本社で行ってくれているので受講して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には加入しているがなかなか講習会等に参加できていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後には常にご本人の要望・意見思い等を聞かせていただき、安心できる環境の構築に努めている。またできるだけ個別対応ができるような職員体制をとり、ご利用者様の満足度向上を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時現況をお話させていただいたり、毎月手書きの近況報告書とその月に撮影した写真を郵送しています。またブログの定期的な更新とInstagramで様子を見て頂く事もできます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と・家族様と話し合いながら望んでいる支援・介護に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事にも自分で出来ることはやっておくよう支援している。洗濯干し・取り込み・たたみ、料理の下ごしらえ、掃除なども一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	未だ玄関先での面会だが家族様が来て頂いた時には、会ってお話をさせていただいています。また急病・提携病院以外の受診は家族様対応で協力いただいています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会にいらして下さった時にもご家族様より許可が出ている方に関しては今は玄関先ですが会っていただいています。	玄関での面会や家族との外出もある程度可能となったが、面会の出来ない期間が長く、家族を忘れる方もあった。利用者は参加できなかったが福祉バザーに3年ぶりに利用者の作品を出展するなど、馴染みの関係の継続に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・状態・好み等を把握しリビングの座る位置を決めている。またドライブ・散歩等に行くときも気の合う利用者様と一緒にしたりと楽しく過ごしていただけるよう気を使っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も職員が面会に行ったり相談等も必要に応じ行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人に担当の職員がおり衣類の整理、部屋の掃除等の支援をさせて頂いている。そうした中で思いや悩みを聞いたりもしている。聞いた事は職員間で情報共有をして本人本位の支援につなげている。	意思疎通の難しい利用者であっても、「やりたい事や昔やった事」等を根気よく傾聴し、職員間で共有し、出来ることを行っていたり、要望をかなえてあげることで1人ひとりに喜ばれている。また、起床や食事、本人の希望やペースで、自由な時間に行っていたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人・前ケアマネジャー等からこれまでの経過や生活環境を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定・食事の摂取量・水分摂取量・排泄の量回数等は必ず記録している。また日中の様子、夜間の様子も文書入力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に全職員での担当者会議・モニタリングを基に本人や家族の意向、提携医療機関や訪問看護師の意見も取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画が作成されている。その後家族に解りやすく説明している。職員も毎日介護計画書に添ったケアが出来ているかチェックを行っている。	全職員によるモニタリングを基に、家族の要望や医師・看護師の意見も得てカンファレンスが行われ、具体的で明確なサービス目標を含む介護計画が作成され、それぞれの目標に向けて支援がなされており、必要に応じての見直しと、3か月単位の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はタブレットや日誌に必ず入力及び記載している。重要な事は口頭で毎朝行っているミーティングにて引継ぎ情報を共有している。毎月一回行っている職員会議で見直しが必要な事柄については話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り個別のニーズに応じられるようにその日の日程は決めず時間での決め事もアバウトにして職員が気兼ねなく柔軟に利用者にかかわれるようにしている。また若い職員さんの意見もよく聞き時代にあった支援を目指している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	深谷市の健康福祉まつりが4年ぶりに開催され出店したがコロナ感染とインフルエンザ感染のリスクもある為職員のみ参加させて頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医療機関だけでなく家族・本人の希望も取り入れて他の医療機関への受診も家族様のご協力のもと行って頂いている。緊急時は施設対応でお連れしている。	入居時に従来からのかかりつけ医と往診のある協力医療機関の選択の説明がなされ、従来からのかかりつけ医や専門医の受診は家族対応であるが、受診医療期間への情報の提供や必要に応じて職員が通院に付き添うなど、適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員はいないが訪問看護さんと提携しておりいつでも相談にのって頂いている。必要な時には来訪して下さったりドクターの往診を頼んでくれたり受診できるように手配して下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけスムーズに医療が受けられるように医療機関の担当者と信頼関係を作れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携病院から終末期に向けた医療について各利用者様の家族と書面での取り交わしをしている。また必要に応じてドクターから家族様に病状の説明をしてくださっている。	入居時に、終末期に事業所ができることの説明が行われ、重篤の場合は、往診医師と訪問看護師や家族の意向も得て話し合いを重ね、看取りを含む最適と思われる支援がなされている。看取りの実績もあり、現在も複数の家族の方が看取りを希望されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行っている。書面だけでなく動画での研修もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成し閲覧できるようにしてあるとともに、研修も行っている。年2回の火災訓練と年2回の自然災害に対する訓練は必ず行っている。防災グッズの備蓄品の管理もしている。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練が実施され、ハザードマップにより水害の危険は無いことが確認され、BCP(災害時事業継続計画)も作成されている。災害種別に対応マニュアルがあり、水や食料品等の備蓄も行われ、職員間のグループLINEにより緊急連絡網も作られている。	年2回の避難訓練が行われ、水害の危険が無いことも確認され、BCPも作成されています。災害時は予期せぬことが生じることも想定されます。地域との協力を強化し、訓練の継続が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時・排泄時等々プライバシーを守る為の声掛けや目隠しをする、ドアは必ず閉める等の配慮はしている。尊厳を尊重し「さりげないケア」を行うよう努めている。	トイレ介助や着替えなど、利用者が他人に知られたくないことや自尊心に関わることは、さり気ない介助により、利用者の尊厳が守られている。また、慣れによる不適切な言葉使いに注意を払ったり、介助する前に何をするのかを声に出して伝えることなどに努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話しかけやすいような雰囲気をつくっている。朝食は利用者様の起きてこられた時間に合わせて召し上がって頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床も就寝も自立している利用者様は好きな時間になっている。また日中もご自分の好きな場所で過ごして頂いている。様々な介助が必要な利用者様は職員とリビングで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2~3か月に1回訪問理容さんをお願いしてきていただいている。身だしなみについても利用者様の状態にあった支援をさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ・インフルエンザ等感染症が流行しているので一緒に買い物に行かなくなっていますが、食材を切っていただいたり、盛り付けや食器洗い・拭きを手伝って頂いている。お掃除も手伝って頂いている。季節の行事食および旬の物も提供させて頂いている。おやつも毎日ではないが手作りして喜ばれている。	調理専門職員が作る献立に基づいて、食材の調達が行われ、出来る方には準備などを手伝っていただき、季節食や行事食、おやつなども含めて手作りの家庭料理が提供されている。また、食事への評価や要望などの聴き取りも行われ、日々の献立などに活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は必ずチェックし記録している。月1回体重測定をして体重管理にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛け及び介助と入れ歯の洗浄・消毒は毎日している。歯ブラシを使えない方は口腔ケアシートを使って拭かせていただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様1人1人の排泄リズムの把握に努めトイレ誘導をさせて頂いている。ただし夜間については睡眠を大切にしたいのでオムツ対応の方もいらっしゃる。	1人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングのよい声掛けや誘導に努めることで、出来るだけトイレ排泄を原則とされ、パッド、おむつの節約に繋がられている。また、トイレでの立ち座りもリハビリと捉え、適切な支援で自力でトイレ排泄が出来るようになった方も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとっていたりしている。生活リハビリにも取り組んでいる(体操)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴日を月曜日と金曜日の午前中と決めているが利用者様の体調によってこの限りではない。入浴剤を使用して香りも楽しんで頂いている。	月金の午前中を原則に週2回の入浴が行われているが、利用者の状況や必要に応じた臨機応変な入浴が行われており、職員2人での対応やシャワー浴など、適切な対応がなされている。また、拒否者にはタイミングや担当を変えたりして入浴を楽しんでいただけるように努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせて利用者様が自分で入床と起床をしている。介助が必要な利用者様は職員がリズムを把握し入床と起床をして頂いている。室温・湿度の管理にも努めている。布団干しをしたりシーツ交換の日を決めて定期的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診・訪看・通院記録を読んだり毎日のミーティングの時に情報共有している。誰でも薬のセットはできるがセットの職員と服薬担当の職員は違うようにしている。定期的な薬は薬剤師が来訪して2週間分日付順でセットしてくれる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆっくり会話をする時間を作れるように努めている。また庭に畑を作り野菜の育成や収穫及び収穫した野菜を食べるのも楽しみの一つである。お花もたくさん植えて四季を味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人混みの所にはまだ外出できないが近隣への散歩やドライブ等には出かけている。またウッドデッキを利用して日光浴したりお茶を飲んだりして気分転換をしている。	外出制限が多少緩和され、近隣の散歩やウッドデッキでの外気浴や茶話会が行われたり、敷地内の畑で野菜作りや収穫を楽しまれたり、ドライブなどが実施されている。また、事業所内でのレクリエーションや運動を増やし、少ない外出の補いをされている。	コロナの終息を見据えて今後の外出のあり方を検討されていますが、利用者の高齢化も進んでいます。高齢者の外出のあり方を含めて、今後の外出がどうあるべきかの検討が期待されます。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症のためお金のトラブルがあるので利用者様は現金をもってきていないが欲しいものがあった時にはまだ一緒に買い物ができないため職員が立替金という事で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいらっしゃるりご自分でかけておられる。かかってこられた時の取次及び利用者様からの要望があった時にはかけています。手紙のやり取りも自由です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感のある共有空間を目指している。庭で栽培した花を摘んできて居室やリビングなどに飾っている。利用者様が自宅で飼育していた金魚を持ってこられて育てている。餌を与えるのが楽しみに育てている方もいる。	両ユニットを通して職員の目が届き易く、季節毎の作品や植物が飾られ、椅子やソファが置かれた共用空間は、雑談を楽しむ方や1人でゆっくりされる方などが思いおもいに過ごすことの出来る空間となっている。また、見通しのきく長い廊下はリハビリに利用される方もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長い廊下の4箇所にソファや椅子を置いてそこで気の合った方と日光浴をしたり外の景色を観たりして会話も楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にしたいので昔から愛用している物や好みのものを持ってきていただいている。家族の写真を壁に貼っておられる方も多い。	職員手作りで利用者ゆかりのものをアレンジした表札がかけられている居室には、慣れ親しんだ家具や家族の写真、好みの品々が持ち込まれ、家庭的で利用者個々の生活に合わせた部屋が作られている。また、携帯電話の持ち込みも可能であり、数名の方が持っておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長い廊下の左右に手すりがつけられており伝い歩きが出来るようになっている。リハビリにも役立つ。ご利用者様全ての行動を職員がケアするのではなくできない事に寄り添えるよう「さりげないケア」に心掛けている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームエフビー深谷

## 目標達成計画

作成日: 令和6年1月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	予期せぬところで自然災害が多発している今日は、災害の種別による防災計画の必要性を重視し、具体的な訓練を行う必要がある。	年2回の避難訓練と同じく、年2回の防災訓練を具体的な内容にして職員全員がより一層真剣に取り組む。 また備蓄品も増やしていく。	BCPに基づき繰り返し研修していく。 また訓練実施後は職員全員で反省会、及び今後の課題等を話し合っていく。	12ヶ月
2	49	コロナ感染が落ち着いてきたが、まだまだ日常的な外出支援ができないので、楽しみや運動量が減っている。	外出(外食・買い物等)をする機会を増やしたい。	少人数であまり混雑していない公園等で青空の下、遊びに行きたい。 出来る事なら外食又はピクニックをしたい。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。